



力強い若衆の辻廻しと宵宮の提灯の明かりが幻想的。

3日 宵山

11時 御湯奉納
17時～22時 曳山巡行



豪華絢爛な飾りに衣替えした曳山と馬場を駆け抜ける神輿が見どころ。

4日 例大祭

10時～15時 曳山巡行
12時頃～ 神輿渡御
16時半頃 神輿還御



巡行ルートは、開催毎に改められますので、詳しくはWEBサイトまたは総合案内所にて配布します巡行図にてご確認ください。



いさみ 勇組

屋根は人母屋妻入り八棟造り。見送り幕は、緑色ラシャ地に、円山応端(応挙の子)下絵の中国風人物の刺繍が施されています。胴幕は、緩れ錦の唐子遊びの図。彫刻等は、地は黒塗り、正面中央に龍、左行は菊・桐・葵の毛彫り、側面に龍宮の飾り金具があり、謡曲「海上」からとつたものと言われています。



たから 寶組

屋根は切妻妻入り造り。見送り幕は、粗い白地織物に、雲龍の黒絵の線の部分を金糸で刺繍。天幕は、手織りの金襴で、紫地に雲と龍の図柄。彫刻は、正面の欄縁は中国の故事「司馬温公かめ割りの図」で、両側面に龍の大彫りがあり、また正面懸魚の部分には牡丹の籠彫りがついています。元文三年(1738)四月と墨書のある山組五町最古の簾箱が保存されています。



りゅう 龍組

屋根は向大唐風造り。見送り幕には、緋のラシャ地に中国の故事「竹林の七賢人」の刺繍が施されています。胴幕は、緩れ錦で図柄は緋網彩色の手法で雲を織り出しています。棟札には大工施工時、柱頭部に金箔漆工時の墨書が残っています。



ともし 巴組

屋根は人母屋妻入り造りで、正・背両面に軒唐破風が付いています。見送り幕は、インド織り絨毯です。胴幕は、紫紺地に五爪の龍を並列にした中国製金襴です。町内には、祭礼の人費一切の控帳「祭礼留記」が残っていて、大溝曳山祭の歴史の大事を知ることができます。



みなと 湊組

屋根は切妻妻入り造りになっています。見送り幕は、紺地に二人の仙人が、二人の従者を伴う図柄で、構図・色彩共にすぐれ、中国の清朝時代の作品と言われています。本幕(胴幕)は、緩れ錦で図柄は波に千鳥、波は金糸で織り上げています。水引は、緋のラシャ地に仙人の刺繍が施されています。本彫は、三番度で狼と笹を漆箔の上に描かれています。